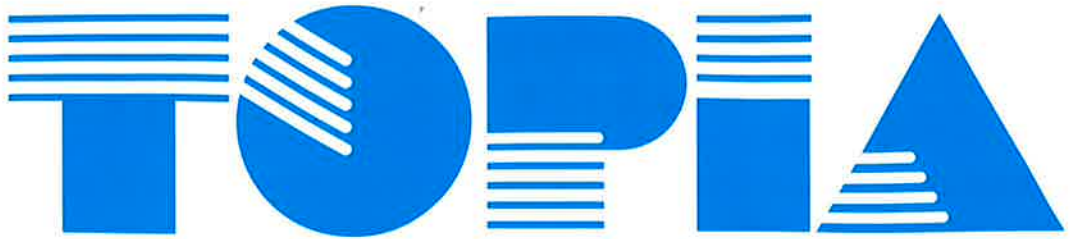


第68号



2017.01



TOKUSHIMA PREFECTURAL INTERNATIONAL EXCHANGE ASSOCIATION

発行／公益財団法人徳島県国際交流協会

TEL: 088-656-3303

年頭のご挨拶

理事長 熊谷 幸三



新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、健やかに新しい年をお迎えになられたことと存じます。

当協会は平成2年に、本県における中核的な国際交流団体として発足いたしました。これまで県民の皆様をはじめ、関係者の皆様と連携を図りながら、微力ではありますが、地域に根ざした国際交流、国際理解の取り組み、更には在住外国人に対する支援の取り組みを進めることができました。

これもひとえに、県民の皆様をはじめ、関係者の皆様の御支援、御協力の賜であり、心より感謝を申し上げます。

さて、徳島県を取り巻く国際化の状況を申し上げますと、昨年は、4月に熊本で大地震が発生いたしました。熊本在住の外国人の方々も避難生活を余儀なくされましたが、地元の国際交流協会を中心に支援が実施されたとお聞きしております。本県におきましても、南海トラフを震源とする巨大地震の発生が危惧されており、多くの外国人の方が被災されることが想定されます。

また、近年、徳島県内に在住する外国人は、5千人前後で推移しております。国籍別では、中国の方が全体の4割強となっておりますが、ベトナムをはじめとする東南アジアの方が増加しております。平成27年末にはフィリピン、ベトナムの方が6百人余となるなど、外国人が地域で仕事や勉強さらには研修を受けながら暮らすことが、身近なこととなっております。

さらには、外国人観光客が急増しており、平成25年に訪日外国人観光客が1千万人を超えたばかりですが、政府は、東京オリンピック・パラリンピックが開催される平成32年には、「4千万人」を目標とするなど、更なる訪日外国人の増加が見込まれており、本県を訪れる外国人観光客数も大幅に増加することが予想されます。

このような状況の中、徳島県では、地域を活性化するための「地域創生」の取り組みが進められておりますが、当協会も徳島県と連動しながら、「国際交流」、「国際理解」、「多文化共生」及び「グローバル人材の育成」を柱に、在住外国人の方への「防災意識の啓発」、英語・中国語による「生活相談」、来日間もない在住外国人の方を対象とした「日本語教室」、さらには、阿波踊り「あそび連」や外国人による「日本語弁論大会」などの各種事業を実施しております。

今後も、なお一層の取り組みが求められており、当協会の事業について不断の見直しを行いながら、地域の国際化による地方創生の推進に努めて参りたいと考えております。県民の皆様をはじめ、関係者の皆様におかれましては、引き続き、当協会への御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が皆様方にとりまして、幸多き年であることを御祈念申し上げまして、年頭の御挨拶とさせていただきます。



平成28年度 国際理解支援フォーラム ～あなたにもできる国際協力支援～

徳島県において、現在約70の国と地域、約5,000人の外国人が共に生活し、異なる互いの文化を理解することが求められています。そしてこの国際化が進んだ社会の中で、さらに海外にも視野を広げ自立するための支援方法を学ぶことも大切になっています。そこで、どのように地球規模で考え、地域視点で行動する「グローバル」を具体的に実行すればよいのかを学ぶために、12月11日（日）に国際理解支援フォーラム（主催 徳島県、徳島県国際交流協会）を開催しました。

第1部では、NPO法人内蒙古愛陽教育経済支援協会理事長の上田 勝久氏に「私の歩んできた道」と題して、私たちにできる国際協力支援についてご講演いただきました。

中国・内モンゴルの砂漠化防止のための植林活動でご苦労なされたこと、またその活動の中で高校教師の烏雲さん（徳島市国府町出身で中国残留孤児の方）に出会い子どもたちの教育経済支援が始まったこと、そのほか生活基盤の安定のために羊の養育方法を教えるなど、様々なアイデアを生かした支援活動について具体的にお話され、最後に語られた「心を感じたことを実行し、継続する」「見返りを求めず行うことが真のボランティアである」という言葉は、聴く者の心に強く響きました。

第2部では、当協会登録の国際理解支援講師、アルンソリヤ アリー氏（ラオス出身）、シリプグリ キラム氏（中国・新疆ウイグル自治区出身）に自国の文化や生活の紹介、日本（徳島）に住んでみて困ったこと、苦労したこと、またうれしかったことなどの体験をお話いただきました。

第3部では、第1部、第2部を通して感じたことを、意見交換しながら、講師の方々とフォーラム参加者の交流の時を持ちました。シリプグリ キラム氏が中国・新疆ウイグル自治区の音楽にあわせ、華麗なダンスも披露してくださり、いろいろな国のお菓子を囲みながら、和やかなひとときを過ごしました。

今回の国際理解支援フォーラムで、国際協力支援について一人ひとりが自分のできることについて考え、お互いに学びあうことで、行動に移す意識を高める良い機会となりました。



上田氏



アリーさん



シリプグリさん



シリプグリさん親子の舞踊

国際理解教育を応援します

国際理解支援講師募集中!

在住外国人の皆さん!

～母国と日本の交流の
架け橋となりませんか～

ご自身の国の文化や生活、異文化理解、人権・平和について学校の子もたち等に語ってくださる県内在住外国人の方を募集しています!
(日本語である程度、日常会話ができる方)



国際理解支援講師派遣依頼募集中!

楽しく、愉快地
多文化交流&異文化理解!

多文化共生に向けた意識醸成や国際理解教育の推進を目的として当協会では学校や市町村の機関などが行う国際交流事業などに講師（県内在住外国人等）を派遣します。

ふるってご応募ください!



防災センター・スタディ・ツアー

当協会では、発生が危惧されている南海トラフ巨大地震や防災について学び、日々の備えに活かしてもらうため平成 28 年 9 月 11 日（日）に在県外国人を対象に防災センター・スタディ・ツアーを開催しました。10 カ国 24 名の方に参加していただき、県立防災センターで地震、台風などの災害疑似体験を通して災害に対する備えの重要性の認識を高めるとともに、南海トラフ巨大地震をはじめとした防災意識を高めました。

最初に、防災ガイダンスコーナーで徳島県が制作した「津波から命を守る」で、東日本大震災時の津波の映像、そして徳島県で地震が発生した際のシミュレーション、地震・津波発生のおそれ、津波が起こった時の身の守り方などの解説映像を視聴後に、地震、消火、煙、暴風体験をしました。

地震体験コーナーでは最初に震度 3 の揺れを体験した参加者たちは怖がる様子もなかったのですが、兵庫県南部地震と同じ震度 7 の揺れの時には参加者は皆、椅子から振り落とされないようにテーブルにしがみついていた。ほとんどの参加者たちが地震を経験したことが無く、「本当に震度 7 の地震が来たらどうしよう」という声が挙がっていました。

参加された方にはここで学んだ知識を参考として、いつ来てもおかしくない災害に対して備えて頂ければと思います。



ホームステイ・ホームビジット

当協会では徳島県地域留学生交流推進協議会との共催で、徳島県内の留学生とその家族を対象に、ホームステイ・ホームビジットを実施しています。今年度は平成 28 年 11 月 26 日（土）から 11 月 27 日（日）と 12 月 3 日（土）に、留学生 26 名（6 カ国 1 地域）がホストファミリーの方々と一緒に楽しい時間を過ごしました。

ホームビジットに参加をした四国大学留学生の陳越さんと陳乾さんの体験談を紹介します。

忘れられない温もり

四国大学留学生 陳 越（チン エツ）

訪

問する家庭の基本情報を初めて受け取った時、これから本当の日本の家庭に接するのだという実感が突如として湧いてきました。

メールの情報を見ながら、どんな家族だろうと思いを巡らせました。お父さんは日本のドラマに出てくるような厳格なお父さんだろうか。お母さんは一生懸命家族の面倒を見ている専業主婦だろうか。息子さんと娘さんは、私たちが突然訪問したら居心地悪いんじゃないだろうか。いろいろな疑問が浮かんで来ると同時に、期待で胸がわくわくしてきました。

初顔合わせのその日は空がどんよりとして雨が降っていました。大雨ではありませんでしたが、テンションの下がる雨でした。

一人の黒いコートを着た、髪を肩で切り揃えた女の子が、紫色の傘を差して私の前に現れました。そして、恥ずかしそうに微笑みながら、穏やかに中国語で話しかけてくれました。「你是陳越吗？」この瞬間、私の不安や緊張は一挙に消え去りました。

「はい、陳越です。はじめまして、よろしくお願いします。」

「こちらこそ、よろしくお願いします。」

ステイ先の竹内さんはおしゃべり好きで物知りなお父さんでした。奥さんはおいしいぜんざいを作ってくれる、何か国語もしゃべれるお母さんでした。娘さんはとてもお利口さんだけど、算数が嫌いな女の子でした。息子さんは恥ずかしがり屋だけど、かっこよ



念願のコタツに入ってみかんを食べながら団らん中

くギターが弾けるお兄ちゃんでした。竹内家は中国の家庭と同じように、仲良しで楽しい一家でした。みなさんとても優しくかったです。

私たちがコタツを囲み、みかんを食べながらおしゃべりをしていた時、もう外のどんよりとした空も降り続く雨も気にならなくなっていました。日本語だったので、相手に自分の意見を十分に伝えられなかったのですが、気持ちは伝わっていたと思います。それは私たち訪問者も竹内家のみなさんも同じだったと思います。国籍や言葉は関係ありません。

お別れの時、時間の流れの速さをひしひしと感じました。もし、またこのような機会があれば、もう一度コタツを囲んでみかんを食べながらおしゃべりがしたいと思います。

忘れられない日本のホームビジット体験

四国大学留学生 陳 乾 (チン ケン)

私

たちが日本の家庭に1日ホームビジットできると知り、私はとても感激しました。私の印象では日本の家庭はどこか謎めいているところがありました。なぜ謎めいているかということ、日本ではとても親しい友達でないと家に招待してもらえないからです。プライベートを重視する日本社会では、日本人であれ外国人であれ、招待されたら、それはとても光栄なことです。今回私は初めて日本に来て、初めて日本の家庭を訪問しました。私の日本の家庭に対するイメージは、ほとんどが日本のドラマや小説によるものです。日本人は大人であれ子供であれ、お互いのテリトリーを重視し、プライバシーを尊重しているように感じます。食事の時も、料理は一人ひとりのお皿に分けられ、それぞれがそれぞれのものを食べます。食事中も中国のようににぎやかではなく、静かに堅苦しく食べているような感じがします。それに、家族同士でも何かしてもらったらお礼を言います。これは外国人である私にとって、とても不思議なことです。私の家では、家族の間では何かしてもらっても、お礼を言うことはあまりありません。中国では、あまり親しくない人に対してや会社などでなら、よくお礼を言います。もし、家の中でお礼を言ったら、よそよそしい感じがします。そんなわけで、今回は感激しながらも緊張しつつホームステイに参加したのですが、自分が失礼なことを言ったりしたりして相手を困らせたりしないか、すごく心配でした。

その日はホームビジットというよりも、1日ツアーといった感じでした。日本人がガイドさんで、見学コースは日本人宅、およびその近所。内容は参加者の興味のあること。この日私たちはみんな遠慮することなく自由に過ごすことができました。一番印象深かったのは、茶道を紹介してくれたことです。和菓子の作り方や種類、和菓子店について、茶道の装いのこだわり、着物の種類やTPOなどについて教えてくれました（私たちは後に一緒に着物を選びに行く約束をしました）。また、茶室や茶道具を見せてくれ、抹茶の飲み方を簡単に教えてくれました。とても勉強になりました。一日日本の家庭で過ごしていると、自分が以前抱いていた日本人家庭のイメージが変わってきました。受け入れ先の家庭は私が想像していた堅苦しさはなく、ユーモアがあってとても明るい家庭でした。私たちはお互い触れ合っているうちに気心も知れ、日本や中国、行ったことのある国のこと、知っている国のことなど、おしゃべりの内容もどんどん広がっていきました。それにつれて、自分の国籍や身分についてのこだわりはなくなり、私たちはただ生活の場所が違っていただけで、みんな世界の一員なんだという気がしてきました。私たちには違いもありますが、共通した部分もあるからこそお互い向き合って交流できるのだと感じました。

日本でこのような貴重な体験ができ、日本を一層深く知ることができたことに感謝しています。このような活動がずっと続いて、もっと多くの人が日本のいろいろな面を知ることができたらいいと思います。



ホストファミリーと交流を深めています！

ホストファミリー大募集中！

皆様も留学生と過ごす中で、異文化のことについて学び、心の国際交流をしてみませんか？詳しくは当協会までお問い合わせ下さい。申込書は当協会のホームページ(とくしま国際戦略センター)の「各種申請・会員(ボランティア)募集」からダウンロードできます。



徳島で暮らす外国人のための日本語教育事業

徳島県国際交流協会の日本語教室は、平成2年の設立当初から在住外国人の方の生活支援のために開始されました。平成2年の設立当初には1,000人に満たなかった県内在住外国人の方が、約25年の時を経て現在では約70の国や地域から約5,000人となり、その支援の必要性は益々高まっています。

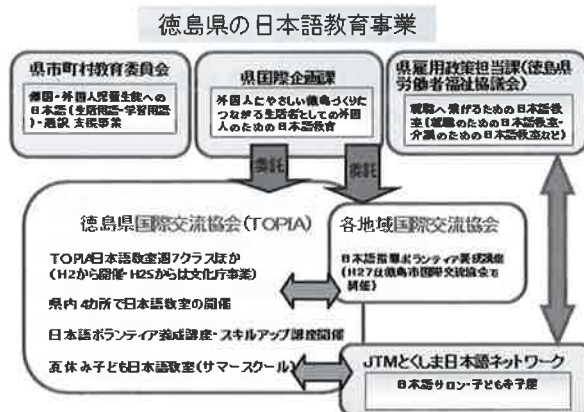
現在、徳島県では、県国際企画課が「生活者のための日本語教育」（文化庁事業）を実施している他、県教育委員会が帰国・外国人児童生徒への支援、県雇用戦略課が就職につなげるための日本語支援をするなど、各部署が連携して日本語教育を行っています。また、民間の国際交流団体や学校・大学等とも協力しながら、県内の在住外国人の日本語や日常生活を多方面から支援できるよう努めています。（図参照）

当協会では、県労働国際企画課が実施する事業を受託し、通常7つのクラスを開催し、また、県内4カ所（阿南・藍住・吉野川・美馬）にも教室を設置しています。夏休みには外国にルーツを持つ子どもたちを対象にした夏休み子ども日本語教室（サマースクール）などに加え、鳴門教育大学で日本語教育を学んでいる大学院生たちの協力で2日間、集中講座を開催いたしました。

そのほか、日本語支援ボランティア育成のための養成講座やスキルアップ講座、徳島に特化した日本語教材なども作成しております。（教材はホームページからダウンロード可）

今後も、様々な機関やボランティアの方と連携・協力しながら、徳島に暮らす外国人の方々のための日本語支援をしていきたいと思ひます。

県内の日本語に関する情報は、その都度、当協会ホームページに掲載いたしますので、日本語を勉強したい方には是非教えて差し上げて下さい。



日本の正月と年賀状の書き方などを集中講座で学んでいる様子

The Tokushima a JET Musical

AJET 徳島支部 リー・ダーネル
ヴィエト エヌゴ

AJET 徳島ミュージカルは、今年で23周年を迎えます。AJET 徳島ミュージカルでは、県民の皆様に楽しんでいただけますよう、分かりやすい英語と日本語を交えながらの上演となります。AJET 徳島ミュージカルのキャストとクルーは、語学指導等を行う外国青年招致事業（JET プログラム）の参加者、県内在住外国人と日本人のボランティアで構成されており、地域の国際交流と教育を目的としています。

今年は、ドイツ・オランダ・アメリカ・カナダ・ニュージーランド・イギリス・アイルランド・フィリピン・南アフリカ、そして日本など国際色豊かなスタッフがそろっております。私たちは1月と2月の週末に集まり、毎回8時間ほど練習や準備に勤しんでいます。現在、2月からの上演に向けて、キャストたちは一生懸命に自分たちの歌唱力、演技力等に磨きをかけ、クルーは小道具や衣装を作成しているまただ中です。

スタッフたちの協力なくして、ミュージカルの実現はありません。彼らがミュージカル制作に関わってくれていることを、大変嬉しく思います。

今年の演目は、「剣山の上のラプンツェル」で、徳島ならではの物語に仕上がっています。

ラプンツェルは誘拐され、剣山に送られてしまいます。永遠の若さと美しさを保つという、ラプンツェルの魔法が欲しくてたまらない意地悪な3人のおばたち。繰り返し起こる出来事の末、ラプンツェルは剣山から自分の過去へと旅立ちます。その旅の途中でラプンツェルは大泥棒のフリン・ライダーに助けられるのです。

AJET 徳島ミュージカル日程等の詳細は Facebook (<https://www.facebook.com/AJETMusical>) と AJET 徳島ミュージカルホームページ (<http://www.ajetmusical.com/about>) をご覧ください。今年のミュージカルもVIP席をご用意しております。その情報も掲載しますので、楽しみにしてください。

私たち AJET 徳島ミュージカルスタッフ一同は、徳島のために楽しいミュージカルを準備して皆様のご来場をお待ちしております！

上演日程

- 2/26 (日) - 石井中央公民館
- 3/ 5 (日) - ときわプラザ男女共同参画交流センターフレアとくしま
- 3/11 (土) - 北島町立図書館・創世ホール
- 3/18 (土) - 東みよし町役場・三加茂庁舎多目的ホール
- 3/19 (日) - 脇町劇場・オデオン座

* 上演時間はホームページにてご確認ください。



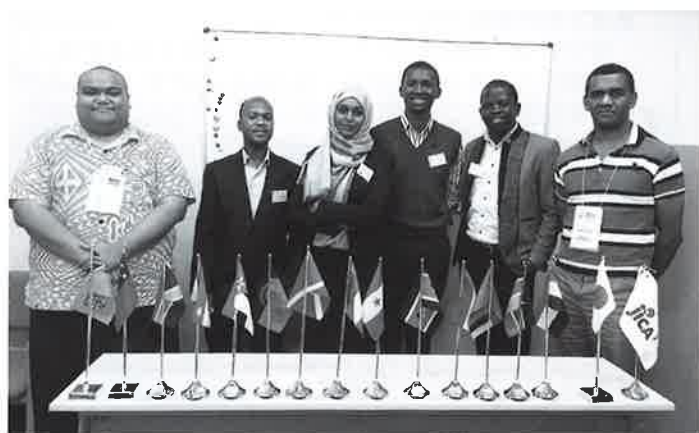
昨年度のミュージカルの様子

Hercules: アワ・ヒーロー ～ギリシャ神話のヒーローが徳島に！～

～ JICA 研修員受入事業 ～ 世界から徳島へ！



JICA の研修員受入事業は 1954 年の開始以来、今では年間約 1 万人の開発途上国の国づくりを担うリーダー達が参加しています。日本国内を現場として開発途上国の様々な課題解決を後押しする日本の技術協力事業の一つです。研修には「課題別研修」「国別研修」「長期研修」「日系研修」「青年研修」といった様々な種類があります。



今年度、上記の研修で「長期研修（1 年以上の受け入れを行い、主に修士・博士などの学位を取得する研修）」研修員として 8 名の研修員が徳島県にやってきました。研修員はそれぞれ、パプアニューギニア・サモア・フィジー・スーダン・ルワンダ・モザンビーク・ナイジェリアのアフリカ・大洋州地域の計 7 カ国からの来日です。今後は徳島県内に住み、それぞれ 2～3 年の期間、徳島大学と鳴門教育大学の研究室に所属し、各自の専門に沿った研究テーマの研究を行ないます。

また、研修員はそれぞれの研究だけではなく、徳島県内でのイベントにも積極的に参加しています。各イベント会場での JICA が出展するブースでは徳島県内の人々と交流を図り、日本の文化や習慣について理解を深めています。研修員は、徳島県内の国際化、地域活性化への貢献に対しても期待されています！そんな彼らが活躍する JICA のブースを見掛けられましたら是非皆さま、お立ち寄りください。



☆ JICA 出前講座 ☆

JICA 研修員及び海外ボランティア OB による国際交流ワークショップや異文化理解講座なども実施しています。JICA は世界中 88 カ国にボランティアの派遣実績があります。普段、交流機会の少ない地域に 2 年間滞在、活動していた元ボランティアや海外からの研修員が現地の食事・踊り・歌などの生活・文化紹介やボランティアの活動体験談など、ご希望に応じて出前講座を行います。講座内容・日時等は要相談。お問い合わせは下記まで。

<お問合せ> JICA 徳島デスク (TOPIA 内) 上西

電話：088-656-3303 メール：jicadpd-desk-tokushimaken@jica.go.jp

コミュニティ通訳研修開始!

徳島県に暮らす外国人は約 5,000 人であり、訪日外国人観光客は 2020 年に開催される東京オリンピックを見据え、大幅に増加することが予想されます。その中には、言葉や母国との制度の違いにより、役所の手続き、医療・教育現場などの社会生活の様々な場面での対応や、今後、起こりうる災害時に支援が必要となることが想定されます。講師の講話、そしてワークショップを通じて色々な場面において多言語で情報提供を円滑に提供できるよう、語学ボランティアとしてのスキルアップを図りませんか?

講師：飯田 奈美子 氏
(多言語コミュニティ通訳ネットワーク共同代表)

日時：平成 29 年 2 月 26 日(日) 13:00 ~ 16:30

入場料：無料

場所：(公財) 徳島県国際交流協会 会議室

申し込み・問い合わせ：当協会まで

英語・中国語による多言語電話相談・窓口案内を行っています

県内在住外国人および旅行等で来県する外国人の方へ、生活相談や観光案内ができるよう、英語・中国語対応の相談(窓口案内)員を配置しています。

電話での相談の際に通訳が必要な場合には三者通話(トリオフォン)もごさいます。是非、ご活用ください。

受付時間：平日 10:00 ~ 18:00

TEL: 088-656-3320 (相談電話)

日時、内容等により依頼にお応えできない場合もありますので、ご了承ください。

TOPIA 賛助会員募集中

当協会では、当協会の趣旨と活動内容にご賛同いただける賛助会員を募集しています。賛助会員は協会の情報を優先して受け取ることができます。

年会費 個人会員 一口 3,000 円 / 年度

団体会員 一口 5,000 円 / 年度

詳細は当協会まで。資料をお送りします。

問い合わせ： 公益財団法人徳島県国際交流協会

〒770-0831 徳島市寺島本町西 1-61
クレメントプラザ 6F

Tel : 088-656-3303

Fax : 088-652-0616

URL : <http://www.topia.ne.jp>

Email : topia@topia.ne.jp

「とくしま外国人支援ネットワーク会員」 募集中

当協会では、自主的に外国人の方を支援していただく「地域共生サポーター」のほか、「語学ボランティア」「災害時通訳ボランティア」「ホームステイ・ホームビジットボランティア」「活動支援ボランティア」を随時募集しています。

ぜひとも、災害時通訳ボランティアをはじめとする、この制度に、多くの皆様のご協力をいただき、外国人の方をサポートして頂ければ幸いです。

「多文化共生の社会づくり」 パネルを貸し出します

あいぽーと徳島と当協会では、外国人の方の人權にスポットをあてた人權啓発パネルを作成しています。講演会や研修会などの際に、このパネルを一緒に展示しませんか? 無料貸出しいたします。当協会にお申し込みください。



在住外国人の方対象の「防災出前講座」をご活用ください!

当協会では、近年危惧されている南海トラフの巨大地震や、年々増えつつあるその他の自然災害から身を守るために、在住外国人の方を対象にした防災出前講座(言語: やさしい日本語・英語・中国語)を開催し、防災意識の啓発をおこなっています。

* 申込は当協会まで。



防災出前講座の様子